

第11回関西3空港懇談会 報告

1. 基本方針

- ・ワクチン接種の進捗など、新型コロナウイルス感染症の収束に向けた対応が進む一方で、新たな変異株の発生等により、関西3空港は依然として厳しい状況が続いており、とりわけ国際線を主力とする関西空港は顕著である。
- ・新型コロナの収束により、入国規制が解除されるタイミング等を捉え、速やかに航空ネットワークや需要を回復させ、併せて、2025年までに、万全な空港受入体制を整えることにより、国家プロジェクトとして、関西一体で取り組む「2025年大阪・関西万博」の成功を期すとともに、さらなる関西の成長へと繋げていかなければならない。
- ・こうした共通認識のもと、まずは、今年度末に関西観光本部において策定が予定されている「関西ツーリズムグランドデザイン2025」などをベースに、迅速に需要回復を図るための取組を準備し、関西の官民が一丸となって、進めることを確認した。
- ・また、第9回懇談会取りまとめで合意した取組である関西空港の発着容量の拡張に関する検討、神戸空港のあり方の検討などを着実に進めていくことを改めて確認した。

2. 各空港に関する報告と取組方向

(1) 関西空港

- ・T1リノベーション、災害対応力強化などの取組について、関西エアポートより進捗状況の報告がなされた。
- ・コロナ収束後を見据え、国際拠点空港として、一層の競争力向上と機能強化を図っていく必要性を確認した。
- ・新型コロナ発生前の2019年実績等を踏まえ、2025年万博開催時とその後の成長に適切に対応できるよう、国土交通省に対し、現行空域における最大発着回数の検証を依頼した。
- ・調査委員会による将来航空需要の予測については、現時点においても新型コロナの動向等、見極めが困難であることから、次回（第12回）懇談会への報告に向けて精査を継続することとした。

(2) 伊丹空港

- ・関西エアポート社から定時運航率向上の取組状況等について報告がなされた。
- ・引き続き、都市型空港として、地域社会との共生を基本に、環境改善と利用者の利便性向上に努めることとした。

(3) 神戸空港

- ・関西エアポート社及び神戸市から国内線発着枠・運用時間の拡大に対応した取組やアクセス改善の取組について報告がなされた。
- ・今後、新型コロナの動向等も踏まえつつ、関空・伊丹を補完する観点からの国際化を含む空港機能のあり方について、関係団体の協力の下、関西エアポート及び神戸市による検討を深化させ、次回（第12回）懇談会で報告を受けることとした。

以上